

## 令和 8 年度第 1 回宮代町立図書館協議会議事録

日時：令和 8 年 6 月 23 日（火） 16 時 00 分～18 時 00 分

場所：宮代町立図書館 研修室

●出席者 委員：山内薫・村山ふさ江・国川恵子・三角由美子・茂木代美・

石崎徳幸・中村智子（順不同、敬称略）

事務局：田代主幹・鈴木主査・吉岡主事

指定管理者：荒田図書館長・永堀一般チーフ、名倉児童チーフ

### ●次 第

#### 1 開会

#### 2 審議及び報告事項

- (1) 令和 7 年度利用・蔵書統計について 資料 2-1 資料 2-2
- (2) 令和 7 年度図書館利用者アンケート結果について 資料 3-1 資料 3-2
- (3) 令和 7 年度図書館協議会委員アンケート結果について 資料 4
- (4) 令和 8 年度事業計画について 資料 5 資料 6

#### 3 その他

#### 4 閉会

### ●会議概要（1 開会 省略）

#### 2 審議及び報告事項

- (1) 令和 7 年度利用・蔵書統計および (2) 利用者アンケート結果について

…図書館から説明（別添資料参照）

《（1）と（2）に関する特記事項》

- ・利用統計・蔵書統計・利用者アンケートの結果を合わせて報告。
- ・利用者数について。前年比微増。宮代町の人口は約 33,000 人。ここ 5 年で 400 人ほど少なくなっている。また、0 歳から 14 歳については現在 3,600 人と過去 5 年間で 140 人ほど減少しているなかで考えると、良い数字ではあると考えられる。
- ・団体貸出について。貸出数は例年比 92.5%と減少傾向にある。貸出内容の要望などを聞いている中でも量として減っていることを感じる。
- ・行事参加者数について。おはなし会やえほんの会などは減少傾向にある。
- ・蔵書統計について。特に選書方針に変化は無い。数についてもほぼ昨年同様となった。
- ・選書方針については、古い本は廃棄を行い、新しい本に入れ替えるという形で品質保持をするという観点で行っている。
- ・利用者アンケート結果については資料を参照。

《（１）、（２）に関する主な質疑応答》

- 委員 蔵書統計について。受入、払出、増減の３つの表の項目について「LD」と「DVD」の項目が誤った表記になっているのではないか。
- 図書館 ３つの表のうち「LD」となっているのは「DVD」の誤りであるため修正願いたい。また、LDの数については「その他」の項目に含まれる。
- 委員 ２月に特別整理を行っていたが、紛失本は出ているか。また、どのくらいあるのか。
- 委員 （紛失本について）蔵書の払出統計には載っていないのか。払出扱いではないのか。
- 図書館 払出統計には載っていない。蔵書点検で３年間見つからないと除籍となる。冊数については後ほど確認する。
- 委員 本の保管場所について、利用者アンケートの中で開架よりも閉架に入っているものが多いため、もう少し開架に置いて欲しいといった意見があった。書庫入れの基準などはあるのか。
- 図書館 基準は類によっても異なるが、旅行雑誌など情報が古くなってしまったものや、貸出が少ないもの、本の状態はよくないが、価値があるため除籍できないものなどを閉架へ置いている。
- 委員 閉架にあるものも、スタッフの方に聞くまたは、検索などで調べると現在閉架にあることがわかるようになってはいるが、検索が難しい利用者にとっては「探していた本が見つからない」という意見になるのではないか。図書館全体で所蔵している本の半分以上が閉架に入っているのはどうなのかと思う。
- 図書館 許容量が開架と閉架では異なるため、開架に置くことができる数は限られる。閉架の書庫は可動式なので詰めて入れることができるが、開架では異なる。
- 委員 開架に置くか、閉架に置くかという点は、利用者の意見も重要である。利用者にとってはどのように感じるかが大切なのではないか。
- 委員 開架の資料の中には、特に文庫本などは古く汚れてしまったものもあると感じる。
- 図書館 現在は、文庫分も汚れている本は入れ替えを行い、閉架へ行くか、除籍を行い買い替え対応している。しかし、利用頻度の高いものなどは、くたびれて返ってくることも多いため、そのような状態のものもなかにはある。
- 委員 準新刊コーナーについて。アンケートを行った際は準新刊コーナーができてすぐであったが、現在はもう少し認知度が上がったのではないか。私自身も、ある時ふと目に入り存在を知り利用をしたが、本の表紙が面出しされていると目に入りやすくとても良いと感じた。他の委員も同様に、少しずつ存在を知っている人が増えているように感じる。児童書コーナーに多くいる人にとっては、新刊コーナーよりも準新刊コーナーのほうが目に入りやすく、利用されている人も見かけたため良いコーナーだと思う。
- 委員 児童書について。他の図書館に比べると、宮代町の児童書はどれも状態が綺麗なものが多い。他館をみると、建物は綺麗でもくすんだ絵本が多く傷んだ本が

見られることが多い。しかし、宮代町では定番の本は綺麗な状態で利用者が手に取れるよう、古くなったものや傷んだものをたびたび入れ替えている効果が出ているように感じる。

委員 知人の話では他の図書館に行った際に借りようと思ったが、傷んだ本を見て借りる気が失せてしまったと聞いた。やはり、子どもに見せる際に傷んでいるものやオレンジや赤い表紙などは色が飛びやすく剥げてしまっているものもあるため、借りる気持ちが薄らいでしまうというものもわかる。

委員 そういったものは本当に早く買い替える必要があると感じる。背表紙などが読めなくなってしまう。

委員 よって、宮代町立図書館の児童書の状態は良いと感じた。

委員 「コレヨンダ」のコーナーについて。利用者アンケートの中で「コレヨンダ」の利用人数が少ない。このコーナーの成果が上がってなかったという反省をされているが、これは先ほどの準新刊コーナーの話題と同じように、利用者に対する広報や宣伝方法が地味すぎるのではないかと感じた。私自身もすぐには気が付かず、ティーンズコーナーへ行く人くらいしか通らない場所にあるため、多くの人は通り過ぎてしまうのではないかと思う。そういった、新しいことに関してだけでなく昔から言っているが目につきやすいポップの設置や、コーナーの場所も重要であると感じるため、ぜひ考察していただきたい。

図書館 それらについて、やはり切り口を変えていかなければならないと思っている。アンケートにもあったが小説が欲しいという声を多くいただいている。しかし、図書館の中には多くの小説がある。利用者の皆様には趣味趣向があるため、おすすめ本や「コレヨンダ」を見ても刺さらない方たちがいる。それらの本を知らない人たちがおすすめ本を見て読み、趣味趣向が広がるように誘いたい、その部分が難しく課題でもある。

委員 しかし、特集コーナーではとても役に立っていると感じる。場所がとてもいいと思う。通り道にあるため「こんな本あるのか」ということに気が付きやすく、非常に良いと感じる。特集コーナーはとても良いため、それと同じく「コレヨンダ」も同じくらいのボリュームで認知されると良い。

図書館 テーマをつけて作った方が良いかもしれない。

委員 タイトルだけ見ても、なかなかどのような本かわかりにくい部分もある。

委員 多くの場合、作者で選ぶ場合と装丁で選ぶ場合のどちらが多い。しかし、「コレヨンダ」では内容がわかる。よって、内容から選ぶときの助けになるというのはとても嬉しい。ぜひお願いしたい。

図書館 検討していく。

委員 利用者としての質問。リファレンスについて専門書ではなく、小説などにおいて「自分は今このような本を読んでいるが、他に同じような内容でおすすめはあるか」といった質問や、「現在精神的につらいためほっこりできるような本を読みたいが何かおすすめはあるか」といった質問には答えてもらえるのか。

図書館 すぐに回答は難しいが、数日時間を頂ければ、なるべく要望にそえる本を提供

させていただけると思う。

委員      ありがとうございます。

委員      検索だと、作家ごとに読みたい本を探すことができる。しかし、「こんな気持ちで読みたい本」は検索では出てこない。これは先ほどの「コレヨンダ」のように、「この本を読むことで、このような気持ちになれる」というものを教えてもらえれば、今の精神状態に合った本が読むことができるのではないか。「コレヨンダ」の役割は大きい。

図書館   それぞれの気持ちに沿うものは検索では引っかかりづらいため、それぞれの読書経験からスタッフの意見を聞き選んでいく。そのため、すぐに回答するのは難しいかもしれない。

委員      ありがとうございます。

図書館   別の側面で行くと、そういった気持ちをちゃんと面と向かって司書に吐露できるかというのが非常に重要ではないかと考える。なかなか、正直な気持ちを伝えることができない人が多いと考える。個人的には図書の検索に限らずこれからはやはり AI 検索などを活用しながら思考することも考えていきたい。言葉にできない、話せない人たちの心を汲みとり本を提供するのも一つの方法であると考え。それらが実現すると司書の負担も少し減るのではないかと考える。しかし、なかなか難しい話ではあるため、少しずつ前向きに検討していきたい。

委員      通販サイトであると、商品ページの下段に次に何を見たいかおすすめて出てくる。例えば“元気が欲しい”や“ほっこり”“温かな気持ちになる”といった様々な項目があり、選択するとその本が表示されるような機能がある。しかし、数が多すぎてしまうことや、求めているおすすめの本が表示されることがあるため、そういったお手伝いをしていただけるとありがたく感じる。

図書館   AI などの良い点は人に話せないことを話すことができるというところが大きいのではないかと考える。初めて話す司書と話すのはやはりハードル高いのではないか。

委員      色ラベルが付いた資料について。資料を見ていくと、NDC 分類（日本十進分類法）で配架されているものと、そこから抜き出されて色別のラベルを貼られ、一般書の棚とは別の色別に並べられた棚へ配架されているものがある。色別のラベルを貼られているものは、どのような基準で選んでいるのか。また、色ラベルを貼られた資料について、検索機で検索を行うと、どの棚に配架されているのかわからなかった。色別に並べられた資料については資料の場所はどこかに示されているのか。

図書館   色のシールがついているものは、それらのジャンルについて、同じ分類の中でも特に文字が大きいものや写真が多いものなど、きっかけとなるような簡単に見ることができる本を多く選んでいる。よって、一般書の NDC 分類で並んでいる資料については、色ラベルで並んでいるものよりも少し内容が難しい資料が並んでいる場合が多い。また、検索については、検索結果の画面に配架されている場所は表示されるため、色ラベルごとに並んでいるのか、NDC 分類で並

んでいるのかがわかるようになっている。まずは、色ラベルの資料で見ていただき、もう少し詳しく知りたいものについては NDC のラベルの資料で見ていただくとよいと思う。特に医療関係などは少し専門的な内容であることもあるため、オレンジの色ラベルの棚にある資料の方が少し分かりやすく、ざっくりとした内容のものがというのが多いため、ぜひ活用していただきたい。

委員 図書館の若い世代の活用について。

中学生などは“推し”や“オタ活”などの文化から、読書についてもアニメやライトノベルなどから興味を持ち始め、段々と深く入っていくこともあると思う。例えば、イラスト漫画創作を行うことができるスペースがあれば、同じ趣味をもつ人同士、または同世代が集まるイベントを行うことができる。そういったイベントをきっかけに同じ趣味や考えを持つ子どもたちが、図書館を居場所として利用できるようになるのではないかな。私の年代は落ち着ける居場所として、静かな場所を求めることが多いが、若い人が同じだとは限らない。

若い世代の興味がある雑誌を置くのはどうか。他にも、図書館に訪れた際に心の悩み、SNS の悩みやトラブルなどの悩みや人間関係の問題を抱えている子どもが来た際に、パッと目に入る本を置くのも良いと考える。

また、中学生が図書館サポーターを行い生徒が地域の人と関わるような、サポーターを募集してみるのはどうか。本が好きな子も多くいるのでそういった地域の方とふれ合う場所を作ってみるのは良いのではないかなと思う。

書架については、面出しをしておくという話があったが、中学生が選ぶ本やおすすめなどをする上で美術部とコラボしてみるなど学校でもできそうなものもあると感じた。

また、勉強だけでなく本を読む際にも、良いセリフを見つけた際にメモしたい場合などを考えると、やはり机があった方が良いと感じる。図書館には机が少ない、あるいは椅子が硬いといった施設的な問題もあり、こういったことを改善する予定はあるのか。また、若い世代に足を運んでもらうためにも、漫画などを配架するのもよいと思うが、そういった予定はあるのか

図書館 施設という面で、設備更新という部分は非常に意識しているが、予算が取れない関係で優先順位は低くなってしまっている。また、漫画に関しては現状、難しいと考える。しかし、推し活というのは一つのキーワードであると感じている。こういった部分で若い世代の目を引き、中学生に来てもらうことで、今までの図書館のイメージにとらわれない、居場所として図書館を認識してもらうことができるのではないかと考える。

委員 自分が読んだ面白かった本をお薦めする短冊を書いて貼っておくなども様々な場所で行っており、中学生を取り込んでいくために活動されている場所もあるようである。

図書館 職場体験に来た中学生には、おすすめの本を POP に書いてもらっている。

委員 なるべく本に興味のある子どもたちを引き込んでいけるようにしていくと良い。

委員 利用者アンケートについて。来ていない利用者にもアンケートを取りたいとい

う話があったが、具体的にはどのようなことを行うのか。

図書館 少しお金がかかる話になるが、出版社にはメールマガジンを配信しているところもあり、メールマガジンに登録をしている方々の住んでいる地域や年代などの情報を持っている。メールマガジンの配信元である出版社に、登録者の年代や地域を絞ったうえでアンケートを配信してもらい、回答をもらうという形を検討している。しかし、報奨がないと回答してもらうのは難しい。そういった面も含めて検討していきたいと考えている。利用出来ない方にどのように意見を伺うのが良いかと考えると、このような方法になる。

委員 実際 60 代と 70 代の回答を合わせても全体の半分ぐらいであり、人口から見るとまだ多くの未回答の方がいらっしゃるため、そういう方たちの中で利用していない方にもアンケートを取れるようになれば良いと思う。

図書館 アンケート結果については、6 割取れている高齢者の情報というのは統計的にも十分な情報であると考えられるため、取れていない 10 代、20 代を重視していきたいと考えている。

### (3) 令和 7 年度図書館協議会委員アンケート結果について…図書館から説明 (別添資料参照)

#### 《(3) に関する主な質疑応答》

委員 来館できない方に対する対応について。何故図書館に来ないのかと考えると、利用者アンケート結果の自動車で来館している方が多いという結果からもわかる通り、自宅から図書館が遠い、歩いて来ることができる場所ではないと感じる人が多いことが考えられる。宮代町の中でも、隣市との境界付近に住んでいる方は(距離的に)来ることは難しい。ましてや、高齢者などは来ることができない。来ることができない理由から考えても、返却ポストは借りている人が、どこでも返せて非常に良いと伝えたが、借りることができなければ返すこともない。借りる手立てをさらに考えたかどうかということで、(資料 4 の) 5 ページで宅配サービスの検討について、アンケートの中で回答した。私はその前のページ(資料 4 の 2 ページ)で「すべての人に使いやすい」を実現するために...と書き、図書館から「実現の可能性を含め、研究してまいります」という回答を頂いた。この回答を見るに「もうこれはできません」と同じなのではないかと私は解釈している。予算的にも人員的にも宅配はできない方向なのか。

図書館 結論的にいくと実現は難しい。図書館の宅配費用の負担先という面では、図書館が支払うとなると予算が取れていない。利用者の方が払うとなると、買った方が安いという話になる。さらに、昨今の物流業界の問題に関しても宅配を増やすようなサービスはどうか、SDGs の考えと反するのではという思いがある。そこで電子図書館の充実を考えている。今、来館できない方たちにとっては電子図書館等の利用は難しい状態ではあるが、現在の図書館の利用者の年齢層 50 代や 60 代はデジタルを使うことに関して違和感が無い方が多い。こういった方に、電子書籍や電子図書館を活用していただきたいと考える。そのために、電子図書館の利用案内や講習会をすることで、10 年後 20 年後に図書館

に行けなくても電子図書館を活用して本を読んでもらうという選択肢を増やしてもらうことが、一つの将来的な答えなのではないかと考える。現実として、今年中に何か行うことは難しいと思う。

委員 その話を踏まえると、70代、80代の現在利用できない方に対する改善の可能性は無いのか。70代、80代にとって電子図書館の利用は当然無理である。宮代町の人口比として70代の割合は多いと思うが。

図書館 これから高齢化していくため、さらに増えていくと思う。しかし、その時に将来を見据えて50代・60代の人たちに電子図書館への抵抗をなくしていくことで、10年後行くことが難しい場合の一つの方法として使ってもらえるのではないかと。また、需要があれば六花にも電子図書館の紹介を行い、スモールスタート（小さな試行）を行い効果があるかということもやってみたと考えている。そこはお金がかからないだろうなと思っているため、そういった取り組みができるのではないかと考えている。

委員 どれも予算的な問題であるように感じる。物流業者を使う宅配ではなくて、図書館の職員が本を持っていくという形はどうか。

図書館 （人員的な問題で）館長が行くようになると考えると、なかなか難しい。

委員 （本が借りられなくなることについて、）明日は我が身である。図書館に来ることができなくなったらと思うと、どのように本を借りればよいのかと考えてしまう。紙の本でなければ嫌だという人もいる。スマホで電子図書館を見るのは、とても大変だと思う。環境が整っていれば、大きくして見ることもできるが難しいのではないかと。

図書館 電子に慣れていただくのもやはり重要であると思う。もちろん、紙であることは非常に重要であり、子どもにとっては、読書経験などを学んでいくうえで紙の本は重要であり電子図書館の利用を促すのは難しいと思う。しかし、高齢者の来館困難な状況に対する一つの解として、電子図書館が有力な選択肢の一つだと考える。

委員 何か町の事業で、町内を巡回しているものは無いのか。例えば循環バスなどを利用できれば、それらを活用し回収できるのではないかと。返却として、最後に図書館に戻ってくれば良いとすると、公的なもので動いているものを使うと町バスなどが良いのではないかと。

図書館 外部との協力という点で、シルバー人材活用なども検討したが、やはり予算の面で難しい。

委員 手で紙の本を読むのは大切である。外に出ることができない日には本やテレビなどが過ごす時間のほとんどを占めるようになると思うため、ページをめくりながら過ごすことができる時間は非常に良いと思う。よって、予算のない中で、現在町中を巡回し動いているものがあれば、そこに返却ができるのではないかと。

委員 返すよりも、借りることが難しい。返す以前に借りることもできない人がいる。

委員 そうなると、片道有料の相互貸借のような貸出しをするしかないのではないかと。

委員 相互貸借であれば、お金はかからないのではないかと。

- 委員 毎月届くサブスクのようなものも良いのでは。
- 図書館 なかなか難しい。
- 委員 東武ストアとカスミが車で販売を行っている。そういったものは利用できないのか。自分の家の付近にも東武ストアの「とくし丸」という移動スーパーや、特別養護老人ホームに KASUMI の車移動スーパーが来ているが、あまり利用されているように思えない。例えば電話でとくし丸に「木曜日の午前中に持ってくる」と伝え、そこへ行って借りることができるようにすれば、人が集まり良いのではないか。
- 図書館 なかなか民間の企業の協力を得るのは難しく、相反することもある。東武ストアや KASUMI やセキ薬局などがブックポストを受けているだけでも本当に奇跡的だなという気持ちがある。
- 委員 和戸の方にはブックポストはぐるるにしかないのか。
- 図書館 そうである。
- 委員 和戸のマルヤには設置できないのか。
- 図書館 マルヤは大通り側から駐車場に入れず、裏側の細い道しか駐車場へ行けないため、事故等の危険性を考えると難しい。和戸駅は断られてしまった。和戸公民館は無人施設のため難しい。和戸駅に置くのが一番良いとは思っているが、一度断られてしまっているのもあり、なかなか難しい。引き続きお願いしていく。
- 委員 和戸方面の方は気の毒である。借りるために図書館へ来るのは遠い、返却できる場所も少ないのは、何か考えなければならない。
- 委員 コンビニなどには置くことができないのか。利用者アンケートでも、そういった意見があったと思う。
- 図書館 利用者の観点から見ると、コンビニで返すことができれば非常に便利であるがコンビニも民間企業なので、予算が無いとなかなか難しい。

#### (4) 令和8年度事業計画について…図書館から説明

##### 《(4)に関する特記事項》

- ・引き続き、第2次図書館ビジョンに基づいた事業を行っていく。
- ・日本工業大学や東武動物公園、役場とともに地域と連携した事業を行う。
- ・子どもの体験につながるようなイベントを企画していきたい。

##### 《(4)に関する質疑応答》

- 委員 駐車場について。何年も話題に挙がっているが、デコボコしているのは建設時に地盤沈下の可能性があるため、現在の仕様になったとのことであったが、利用者アンケートでもあったように全面平らな駐車場にして欲しいと言う意見があった。今後地盤沈下の可能性は無いのではないかと。予算的に TRC ではなく、町が回答するものだと思うが、その点はどうなのか。非常に危険な状態であり、引っかかると、高齢の方は転んでしまう。向かい側の駐車場は平らなつくりであるため、図書館前も平らでよいのではないかと。作られた当時は地盤沈下の可

能性があるため、デコボコの作りになっているのは説明がついたが、30 年たった今はもう大丈夫なのではないか。

事務局 アンケートや利用統計を見ても、車で来られる方がほとんどということから、多くの方が駐車場を利用していることがわかる。しかし、測量していないため正確な数字は不明ではあるが、今でも少しずつ沈下している。施設の周りを見ると建物と周りの土地の間が少しずつ離れていき、亀裂が入っている様子も見受けられるため、インターロッキングのところなどは、少し割れているところも出ているため、まだ沈下の可能性はある。もともとこの付近は沼地のため、地盤も弱く雨が降ると溜まりやすいところでもある。駐車場の前のところなどは道路にすぐに雨が溜まり、土も流れていってしまうと考えられる。

委員 平らにできたらいいなと思ったが…

事務局 デコボコしていて良いことは無いため、何かしら対応はしていきたい。

委員 アスファルトにしなくとも、デコボコを減らす、あるいは石と土の差を減らすようなことをしていただきたい。

事務局 事故が起きる前に対策を考えていきたい。

委員 児童への取り組みについて。いろいろ行う中で、学校や図書館で、子どもたちが本を読みたいという気持ちを育てるのに効果があるのは、読み聞かせはもちろん、ブックトークは絶大な効果があることを経験してきた。私は、百間小学校で毎週木曜日ブックトークを行っているが、小中学校とも段々と図書館スタッフによる、ブックトークの回数は徐々に増えている。クラス数や人数なども異なるため一概には言えないが、学校によって回数に差が生じている。よって、できる限りブックトークの回数を増やして欲しいという思いがある。台本などは提供しているが、図書館スタッフの人数は限られているので、(ブックトークに行ってしまうと) 児童のところが手薄になってしまうなという悶々とした思いがある。一般のスタッフも児童のことをできるようにすることは可能か。学校図書館連絡会の際に、須賀小は須賀小のスタッフさんが頑張るとのことで提供しているが、クラス数が多い笠原小などは、東小などに比べてブックトークに行く回数が少ないため、もう少し増やしたい。私も手一杯でやっているため、行きたい気持ちはあるがなかなか難しい。人数的に児童担当スタッフの中からブックトークを行うスタッフを増やすのは可能か。

委員 現在は学校に行っているスタッフは何人いるのか。

図書館 スタッフは全部で 5 人いる。それぞれの学校に 1 人ずつおり、全部で 7 校あるため、うち 2 人が 2 校担当している。

委員 週 1 回で 2 時間活動しており、その時間に収まるブックトーク回数以上に行わなければ、全クラス行うことはできない。増やすのは難しいと思うが、それらを行うことが、一番効果がある。三芳町の町立図書館は日本でも推進モデル地区になっており、図書館でぐりぐらタイムというのがあり、1 ヶ月に 1 回から 2 ヶ月に 1 回ほどブックトークを児童のスタッフさんが読み聞かせを 2 冊行った後に、ブックトークを 5、6 冊行うような内容であった。私も 2 回ほど見学行

き、教わってきたが理想はそういうのができるといいなと思う。ここまで行くには、なかなかハードルがある。実際、図書館に来てもらうとなると、好きな子だけしか来ない。しかし、ブックトークから広げていくっていうのもあると、非常に良いと思う。やはり、子どもたちがたくさんいるところで子どもたちが学校の図書室や教室で司書スタッフのブックトークを聞く機会をもっと増やしていきたいと思っている。私もできることは皆行っているが、年齢もあり、将来のことを考えると時々心配になる。自身のようなボランティアの中には、作った台本を使ってブックトークを出来る人が百間小には3名いる。しかし、読み聞かせはできても、ボランティアにブックトークを行ってもらうのはものすごくハードルが高い。そうすると、図書館のスタッフさんをお願いするしかないため、切実に願っている。

図書館 限られた勤務の時間もあり、図書館の業務もあるなかで、学校のブックトークを行うとなると結構負担になってしまいが、今ブックトークを行っているスタッフから引き継いでいかないとまずいという話はスタッフ内でも出ている。しかし、引き継ぐ時間を取るのが難しい。一応、今年度も一般スタッフから県立図書館で行っている児童の研修には参加している。また、一般のスタッフも有名な絵本は読んでいこうということで、毎週2冊はスタッフ間で読む取組を始めている。少しずつではあるが進めている。

委員 学校としてはやはりブックトークを行ってもらうことが非常に有効であるが、今のところボランティア頼りとなってしまっているのが何とも言えない。読み語りのボランティアはいるが、ブックトークを出来る人は少なくなっている。

委員 ブックトークとなると、ハードルが立ち上がるため、やはりスタッフに来て欲しい。

委員 ただ、児童の方にそこまではなかなか配置ができない状態である。

委員 将来的にはブックトークをできる人を育てていかないといけない。職員の力を借りることももちろん重要であるが、他に何か考えた方が良いのではないかな。ボランティアも職員も参加するようなブックトークの研修会を定期的に行うのはどうか。

委員 研修会を行うのではなく、人が取れるかどうかということが重要。ブックトークの原稿は作られているため、人がもう少し児童の方に来てもらえたらと思う。図書館スタッフは、一回ブックトークの台本を手伝ってもらって、方法を教えれば本が好きな方が多いのですぐ上手になられる。そこは心配していないが、人が取れるかどうかとか、育てるかどうか重要である。

委員 行事予定表について。丸がついている部分に関しては、行事が決まっていないのか。6月はもう既に行われていると思うが、その後の丸印についてはどのような状況か。日にちは決まっていなかったが実施は決まっているのか。特に、8月の夏休み作文教室や9月の認知症の展示など、丸印が入っている件に関しては日にちが決まっていなかっただけで、もう内容的には準備がされているのか。

図書館 (資料ができた) 時期の関係で、資料作成時には未定であったが、既に決まっ

ているものもある。

委員 承知した。

委員 行事予定用の三角の印は何か。

図書館 大人のための絵本の集いは、一つだけ三角があるが、ボランティアの関係で開催できない可能性もあるものである。ボランティアの方々にも携わっていただいているもののため、その方々との予定によって決まる予定である。

### 3. その他

- ・ 次回の図書館協議会では、今回の協議会の中で出た意見の中で検討しますと図書館が回答したものについては、すべてではなくても良いためその後の結果を出していただきたい。
- ・ 次回会議は、11 月に開催予定。

### 4. 閉会